

【研修報告】

第9回アジア太平洋タバコ対策会議（APACT 2010）に参加して

川 根 博 司*

はじめに

第9回アジア太平洋タバコ対策会議（Asia Pacific Conference on Tobacco or Health : APACT 2010）は2010年10月6日から9日までの4日間、オーストラリア・シドニーで開催された。今回のAPACT 2010に日本からは40名余りが参加し、世界41カ国約700名の参加者があったそうである。

初日から参加するために、前々日の4日夜に成田空港からカンタス航空の直行便でシドニーに飛び立った。シドニーを訪れるのは初めてでなく、四半世紀ぶりのことである。9時間半のフライトで5日朝にシドニー空港に着いたが、機内ではあまり眠れなかった。ホテルにチェックインできるまで、市内観光で巡った観光名所のオペラ・ハウスやハーバー・ブリッジの姿は25年前と変わらないものの、周辺の風景や市街のビルディング群などは一変していた。

筆者は3日目のポスターセッションにおいて、医療漫画にみられる喫煙描写場面について検討したことを発表した（写真1）、この国際会議の概要を紹介しながら、発表内容を簡単に述べる。

アジア太平洋タバコ対策会議（APACT）とは

APACTができた経緯は、すでに本紀要の第8巻（2008年3月発行）に紹介しているのでご参照いただきたい。筆者のAPACTへの出席は第3回、第8回に引き続き3度目となるが、この国際会議の特徴の1つは、保健医療専門家だけでなく、いろいろな分野で禁煙活動をしている人たちが参加することである。

第3回APACTは1993年に埼玉県・大宮市で開かれたが、2013年の次期大会は千葉県・幕張で開催されることが決まっている。今回のAPACT 2010のテーマは、「アジア太平洋におけるFCTC：変化、挑戦、前進」であった。FCTC（たばこ規制枠組条約）は日本も批准している国際条約であり、2005年2月27日に発効した。しかし、わが国の「たばこ事業法」はその第1条で「わが国たばこ産業の健全な発展を図り」と述べていて、この国際条約とは明らかに矛盾する。早急にこの法律を改廃して、日本で開催されるAPACT 2013が盛り上がるようにしないといけない。

学会発表の内容

若年者の喫煙行動に影響を与えるものとして、テレビや映画の喫煙シーン、漫画の喫煙場面が挙げられている。筆者は本大学図書館に所蔵されている医療漫画の単行本のうち「Dr. コトー診療所」、「ブラックジャックによろしく」、「Ns' あおい」を対象として、司書2人とともに、漫画の中の喫煙描写場面を調査した。喫煙描写場面とは①喫煙場面：喫煙行為そのもの、②喫煙関連場面：灰皿、タバコの箱などの描写、③反喫煙（アンチスモーキング）場面：禁煙の意思表示・示唆、禁煙マークなど、である。調査結果はまず、2007年2月に開催されたみやこ禁煙学会において口頭発表するとともに、日本医事新報誌上でも報告した（川根、渡辺、竹下、2007）。次いで、その後図書館で受け入れた同じ医療漫画本について同様の調査を行い、第4回日本禁煙学会総

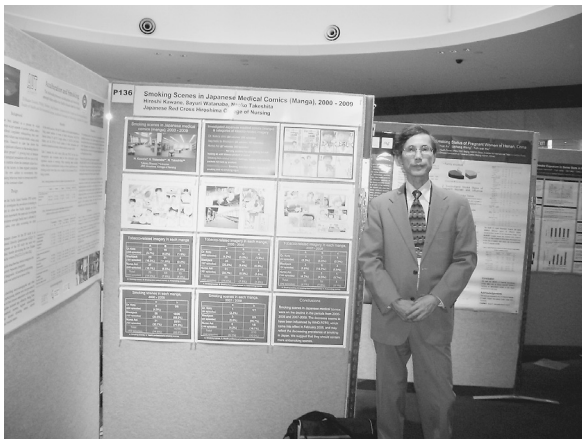


写真1 ポスター発表

* 日本赤十字広島看護大学 kawane@jrchn.ac.jp

表1 2000～2006年の各漫画における喫煙描写場面

Tobacco-related imagery in each manga,
2000-2006

	A	B	C
Dr. Koto (224 episodes)	9 (4.0%)	13 (5.8%)	4 (1.8%)
Blackjack (127 episodes)	26 (20.5%)	12 (9.4%)	1 (0.8%)
Nurse Aoi (101 episodes)	31 (30.7%)	9 (8.9%)	3 (3.0%)
Total (452 episodes)	66 (14.6%)	34 (7.5%)	8 (1.8%)

A:Smoking scenes, B:Smoking-item-related scenes, C:Antismoking scenes

表2 2007～2009年の各漫画における喫煙描写場面

Tobacco-related imagery in each manga,
2007-2009

	A	B	C
Dr. Koto (44 episodes)	1 (2.3%)	3 (6.8%)	1 (2.3%)
Blackjack (54 episodes)	3 (5.6%)	9 (16.7%)	3 (5.6%)
Nurse Aoi (144 episodes)	6 (4.2%)	7 (4.9%)	1 (0.7%)
Total (242 episodes)	10 (4.1%)	19 (7.9%)	5 (2.1%)

A:Smoking scenes, B:Smoking-item-related scenes, C:Antismoking scenes

会および日本医事新報にて報告した（川根，渡辺，竹下，2010）。

今回は同じ漫画の新しい単行本も追加して検討し，“Smoking scenes in Japanese medical comics (manga), 2000-2009”というタイトルで発表した。「Dr. コトー診療所」は24巻・268話，「ブラックジャックによろしく」は20巻・181話，「Ns' あおい」は27巻・245話の全ページにわたって喫煙描写場面を調べた。調査結果を2000年から2006年までと2007年から2009年までに分けて，それぞれ表1，表2に示す。前者における喫煙場面，喫煙関連場面，反喫煙場面は総計452話中，それぞれ66回（14.6%），34回（7.5%），8回（1.8%）であり，後者では総計242話中，それぞれ10回（4.1%），19回（7.9%），5回（2.1%）であった。2007～2009年に発行された漫画本では，2000～2006年刊行のものに比べて，喫煙場面が著明に少なくなっていた。この喫煙場面の

減少は，わが国のFCTC批准による社会状況の変化や最近の喫煙率の減少を反映していると思われる。今後は医療漫画の中に反喫煙場面がもっと描かれるように希望する。

なお，APACT 2010で発表した演題の要旨は，プログラム集に英文抄録が掲載されていることを記しておく（Kawane, 2010）。

おわりに

APACT 2010はダーリング・ハーバーにあるシドニー・コンベンション・センター（写真2）で開催された。会場へはシティ・センター駅からモノレールに乗って通ったが，このモノレールは市内中心部からダーリング・ハーバー帯を反時計回りに約15分で周回するものである。料金は1回4ドル80セント（約400円）と結構高かった。シドニーはいろいろ物価が高いようで，聞くところによると，ハンバーガーのマクドナルドでのアルバイト代は時給1,500円とのことであった。

前回（台湾・台北）の第8回APACTの際には，会場となったホテルにほぼ缶詰状態であったが，今回は学会の合間に観光やショッピングを楽しむことができた。シドニーを代表する景観といえばオペラ・ハウスとハーバー・ブリッジである。宿泊したシャングリラ・ホテルの部屋から毎日この絶景を眺められたのは，ちょっとした贅沢であった。8日・金曜日の夜は学会が主催するシドニー湾のトワイライト・クルーズに参加した。トワイライトといっても19：00から23：00までのクルーズで，夜景がとても美しく，オペラ・ハウスも海側から眺めるとまた格別であった。船上での余興として，シドニー大学公衆衛生学教授のサイモン・チャップマン先生が率いるロックバンドThe Original Faux Pas（ちなみに，faux pasとはフランス語由来で過失・失策のこ



写真2 シドニー・コンベンション・センター前にて

と)の生演奏があった。ソロで熱唱するチャップマン先生やバンドのメンバーの熱演のもと、われわれ日本からの参加者も他の国々の人たちに負けないように、船が埠頭に着くぎりぎりまで踊りまくった。まさに映画「サタデー・ナイト・フィーバー」ならぬフライデー・ナイトにフィーバーして、このトワイライト・クルーズは忘れられない最高の思い出となった。

シドニー滞在最終日には、日本人観光客はあまり行かないと思われるニューサウスウェールズ州立図書館を訪れた(写真3)。この州立図書館はさかのぼれば180年余りの歴史があって、ヨーロッパ植民時代からのコレクションを持ち、400万冊以上の蔵書を誇っている。ちょうど特別展が開かれており、所蔵する貴重な絵画や文献などを見ることができたのは幸いであった。また、ニューサウスウェールズ州立図書館といえば、1945年に作成された「シンドラーのリスト」の実物が、最近になって(2009年4月発表)同図書館に保管されていた資料から偶然見つかったことでも知られている。

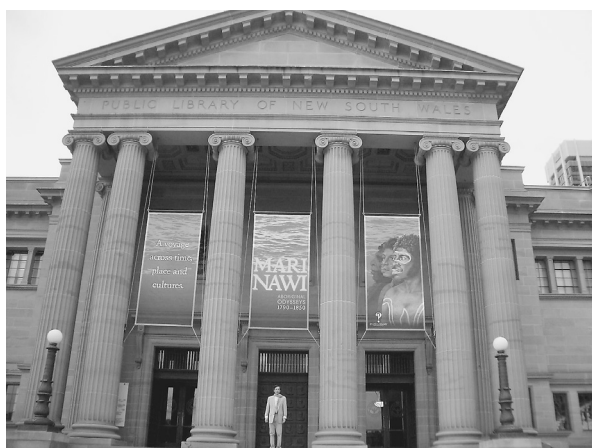


写真3 ニューサウスウェールズ州立図書館

シドニーのタバコ事情であるが、オーストラリアは法律で公共の場所での喫煙が原則禁止されている。会議場はもちろん、ホテル滞在中やレストランに行っても全くタバコ臭を感じなかった。ただ、建物内が全面禁煙となっているためか、歩きタバコや信号待ちでの一服、ビルの出入口付近で喫煙する人がいて、副流煙が気になった。タバコへの課税率が高く、値段も1箱900~1,000円くらいするし、警告表示は健康被害の具体的な写真や図入りで、FCTCに従ったものになっている。最後に、オーストラリアを出国する際に驚いたのは、シドニー国際空港の一番大きな免税店では、酒(アルコール類)はたくさん置いてあるのにタバコがまったく見当たらなかったことである。何とタバコ製品は一般客から見えないよう隠してあり、白いパネル(タバコの害の警告文が貼ってある)で囲まれた一角に入っていないと買えないようになっていた。FCTCを着実に実行していくオーストラリアと何とか先送りしようとする日本の違いについて大いに考えさせられた。

謝辞

今回の国際会議に出席する機会を与えて下さいました本大学および関係者の方々に感謝いたします。

文献

- 川根博司, 渡辺さゆり, 竹下直子 (2007). 医者・医療漫画にみられる喫煙描写場面についての調査. 日本医事新報, 4358, 81-83.
- 川根博司, 渡辺さゆり, 竹下直子 (2010). 医療漫画にみられる喫煙描写場面についての検討. 日本医事新報, 4493, 99-100.
- Kawane, H. (2010). Smoking scenes in Japanese medical comics (manga), 2000-2009. APACT 2010 Handbook and Conference Program.